

里山環境を考える

射水でセミナー

里山環境などについて考える射水市内の3団体による自然環境セミナーは28日、同市三ヶの松原屋旅館で開かれ、約70人が講演や交流会を通じて環境保全について考えた。

住民有志でつくる「きららかネットワーク」「大門里山の会」とNPO法人・



自然環境ネットワーク・射水市ビオトープ協会が企画した。セミナーでは、きららかネットワークの藤岡正明理事長があいさつし、市環境課の山本和永主任が

「趣味から感じる自然環境の変化」と題して語った。

山本主任は趣味の魚釣りで南方系の魚や大ぶりのクロダイなどがかかるようになったことに触れ、「地球温暖化による海水温の上昇で水辺環境が変わっているのではないか」と述べた。

講演する山本主任
射水市内の旅館

富山新聞 平成27年1月29日(木)

初の合同セミナー

自然環境保全の3団体



射水 射水市内で自然環境の保全活動をする3団体が28日夜、射水市三ヶ(小杉)の旅館・松原屋で、自然環境セミナー・交流会を開い

た。合同でセミナーを開くのは初めて。

3団体は、竹林の整備や竹炭づくりなどを行う「きららかネットワーク」(藤岡正明理事長、山に植樹したり竹炭を作ったりして自然を守る

活動をする大門里山の会(山本美喜子代表)、射水丘陵の在来生物の保存を目指す、同市野手(小杉)にビオトープを設けたNPO法人自然環境ネットワーク・射水市ビオトープ協会(岡田一雄理事長)約70人が参加し、市環境課主任の山本和永さん(写真左)の講演「趣味から感じる自然環境の変化」を聴いた。山本さんは趣味の釣り、生き物の採集を通して、「水生昆虫の激減は、水辺の生態系が崩壊していることを意味している」などと話した。交流会で親睦を深めた。

北日本新聞 平成27年1月30日(金)